ＰＭセミナー2016

報告書

平成 28 年 12 月 5 日（月）

於：都市センターホテル

【CPDﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ番号：201610210004】

一般社団法人　建設コンサルタンツ協会

マネジメントシステム委員会

ＰＭ専門委員会

PM セミナー2016

日　時：平成 28 年 12 月 5 日（月）13：00～17：00
会　場：都市センターホテル　601 会議室
ＴＥＬ.（代表）03-3265-8211
住所　　〒102-0093　東京都千代田区平河町 2-4-1

プログラム

（司会：PM 専門委員会委員　舟川　功）

13：00～13：30	受付開始
13：30～13：50	開会挨拶/PM 専門委員会活動報告及びセミナー概要 マネジメントシステム委員会副委員長　藏本　克哉
13：50～14：20	＜第一講＞ 「CM 業務の特徴と現状課題について」 PM 専門委員会副委員長　畔柳　耕一
14：20～15：30	＜第二講＞ 「三陸沿岸道路事業 PPP（釜石山田工区）の取り組みについて」 パシコン・安藤ハザマ・不動テトラ設計共同体 パシフィックコンサルタンツ株式会社 北海道支社　交通基盤事業部長　鈴木　剛氏 質疑応答
15：40～16：55	＜第三講＞ 「福島県版道路ＣＭの取り組み ～発注者の視点から見たＣＭ方式導入のあり方について」 福島県　土木部道路整備課　課長　井戸川　伸氏 主任主査　佐藤　文裕氏 質疑応答
16：55～17：00	講習会のとりまとめ　PM 専門委員会　山手　弘之

１．セミナーの概要

今年度は、CM 方式の有効性が理解されることを目的に、CM 方式の概要説明に加え、東日本震災復興事業において建設コンサルタントの立場と発注者からの立場の両面から、CM 方式が積極的に活用されている最新事例として、その業務内容等の紹介を行った。

○　発注者支援業務と CM 方式

発注者支援業務と CM 方式の相違点、CM 方式の概要について図表等を交えて以下の事項を解説した。

- CM 方式が必要とされている理由
- CM 方式の定義（CM 方式は発注者が行う業務を代行するマネジメント業務であり、従来の発注者支援業務とは異なること）
- CM 方式の契約形態（ピュア型とアットリスク型の異なる 2 種類があること）
- CMR（CMr）による発注者の代行者としての権限の範囲
- CM 方式の導入段階（計画段階から維持管理段階であること）

○　建設コンサルタントが目指す CM 方式

建設コンサルタントが目指す CM 方式の特徴は、以下の事項であることを解説した。

- ピュア型 CM は、過去の事例からも既存技術で発注者の代行的役割が十分果たせることが示されていること。
- 建設コンサルタントとしては、現在の準委任契約で導入できるピュア型 CM を展開していくこと。
- 震災復興でのアットリスク型 CM は、契約関連について、①官民の役割分担の明確化、②インセンティブ基準の明確、③専門業者の選定方法の改善、④請負契約によるリスク（瑕疵担保責任）などの課題が残されており、その解決に向け取り組んでいること。

○　東日本の震災復興事業（三陸沿岸道路事業促進 PPP、福島県版道路 CM）における CM 方式導入事例紹介

東日本震災復興事業において実施されている事業促進 PPP について、図表等を用いて業務概要・効果・課題等を解説した。

- 事業促進 PPP の立場役割
- PPP の取組み
- 2 年間の業務を終えてなど

また、発注者の視点から見た CM 方式の導入のあり方として、以下を解説した。

- 福島県の被災概要
- 復旧・復興事業の規模と体制
- 復興事業の課題と CM 導入の経緯
- 福島県版道路 CM 業務の課題と今後の進め方
- 建設コンサルタンツに望むこと

２． アンケート調査結果の概要

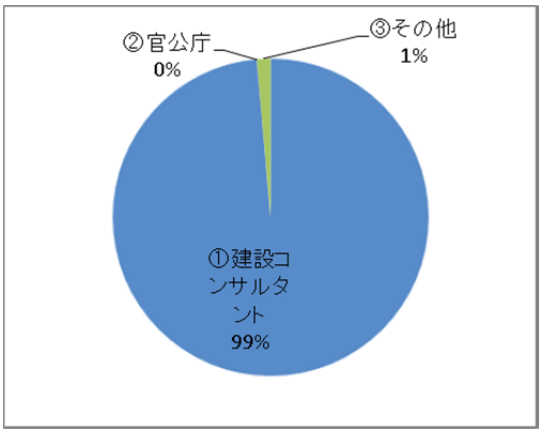
（１）セミナー参加者に関する事項

当セミナーの参加者の所属組織は、「建設コンサルタント」が 99%（71 名）であり、「その他」（非破壊検査）が 1%（1 名）であった。

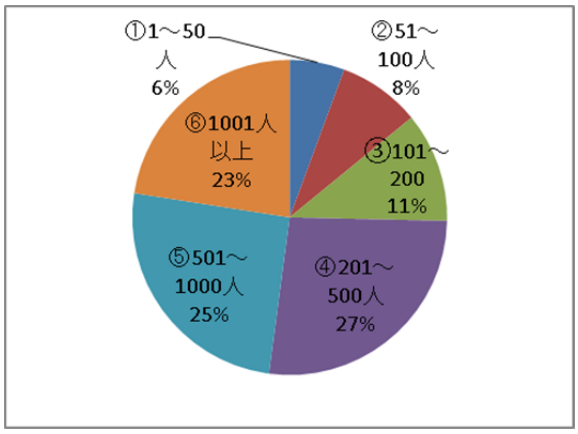
「建設コンサルタント」においては、社員 200 名を越える規模の会社が約 75%を占め、個人の職位は生産現場のグループ長、担当技術者が主体（約 70%）であり、その内 80%近くは職務経験年数が 20 年を超えていた。

また、昨年の PM セミナーに参加した聴講者は 32%を占め、6 年前の当セミナー（約 10%）とは傾向が変わり、マネジメント業務への関心の高さが伺える数値である。

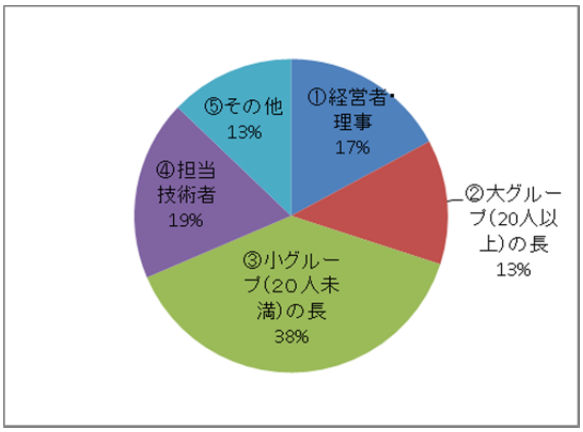
【所属組織】



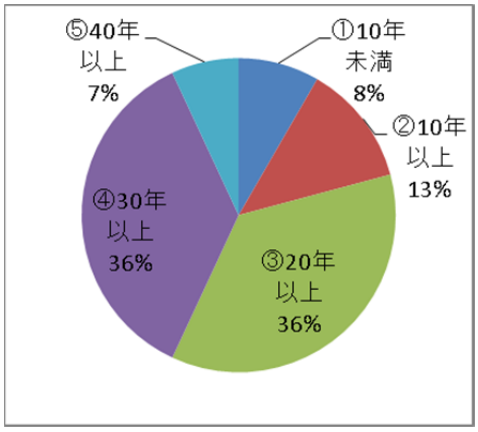
【所属する組織の規模】



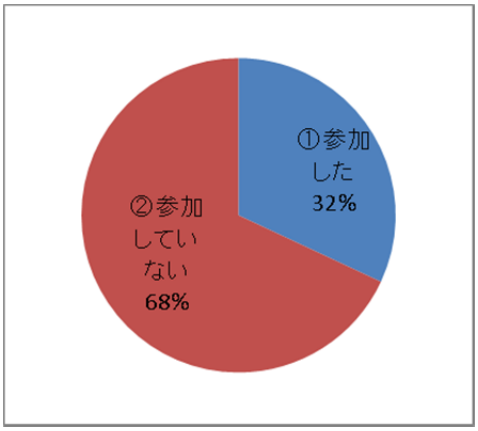
【職位】



【職務経験年数】



【昨年の PM セミナーの参加状況】



セミナー参加者に関する事項

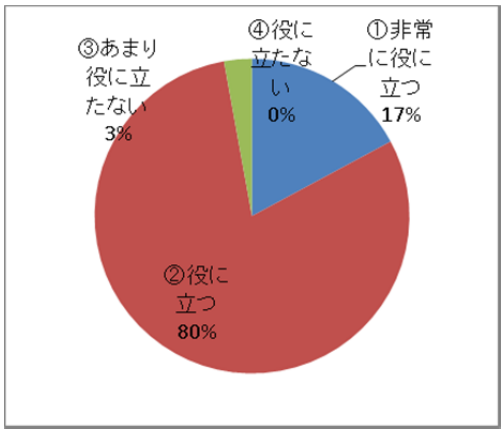
（2）発表内容及び講師の説明に関する評価

1）第 1 講　CM 業務の特徴と現状課題について

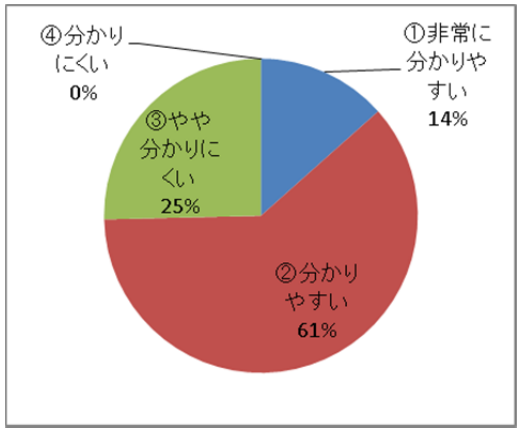
発表内容に関しては、「非常に役に立つ」と「役に立つ」の合計が 97%であり、講師の説明に関しても、「非常に分かり易い」、「分かり易い」が 75%を占めていた。

また、発表内容が「役に立たない」や講師の説明が「分かりにくい」等の否定的な意見は見られず、第 1 講については肯定的な評価を得たと受け取れる。

【第 1 講　内容】



【第 1 講　説明】



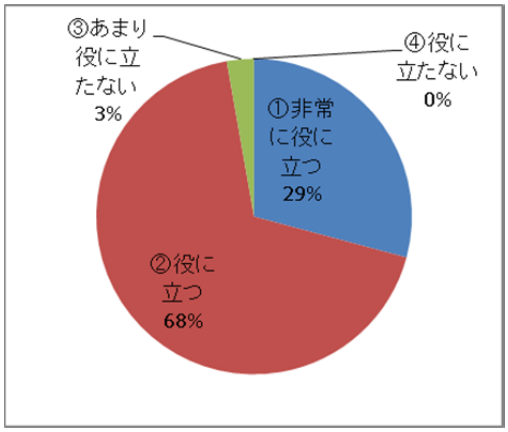
発表内容および講師の説明について（第 1 講）

2）第 2 講　三陸沿岸道路事業 PPP（釜石山田工区）の取り組みについて

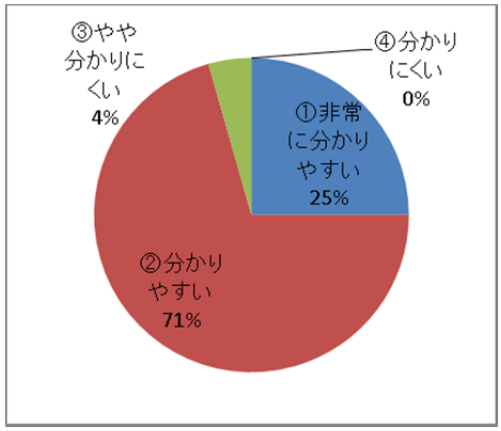
発表内容に関しては、「非常に役に立つ」と「役に立つ」の合計が 97%であり、講師の説明に関しても、「非常に分かり易い」と「分かり易い」の合計が 96%とほぼ同様の回答である。

また、自由意見では、熊本など東北以外の事例を知りたいなどの意見が見られた。

【第 2 講　内容】



【第 2 講　説明】



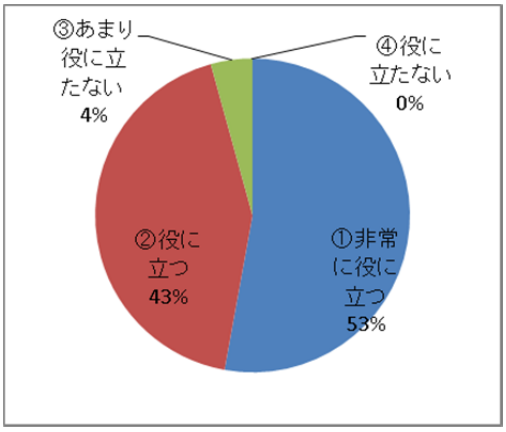
震災復興事業における CMR の事例について（第 2 講）

３）第３講　福島県版道路ＣＭの取り組み～発注者の視点から見たＣＭ方式導入のあり方について

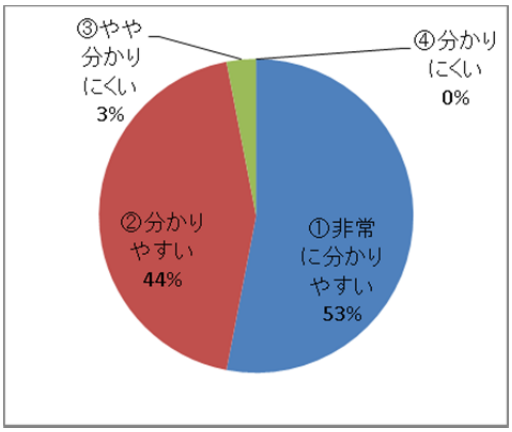
発表内容に関しては、「非常に役に立つ」と「役に立つ」の合計が 98%であり、講師の説明に関しても、「非常に分かり易い」と「分かり易い」の合計が 97%と同様の回答である。

また、自由意見の内容からも、CM 方式の課題が聴講者にも理解されたと推測できる。

【第３講　内容】



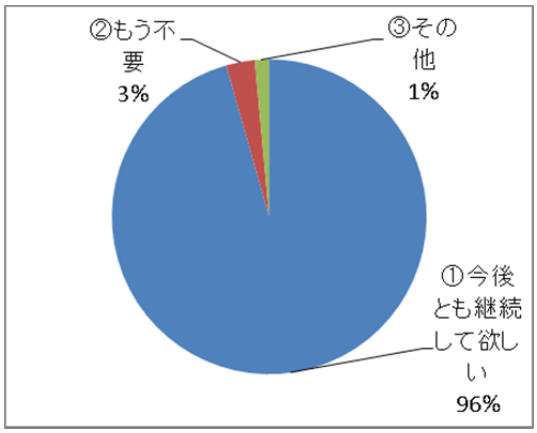
【第３講　説明】



CMJV における震災復興事業の取り組みと課題ついて（第３講）

（３）PM セミナーの継続について

今後のＰＭセミナーの継続に関しては、「今後とも継続して欲しい」が 96%を占めており、「もう不要」は 3%であった。



今後の PM セミナー開催について

（４）自由意見における傾向と評価

自由意見では、「東北以外の事例を紹介してほしい」「道路分野以外の事例を紹介してほしい」「行政側の考えをまた聞きたい」などの意見が見られた。

３． 来年度への課題

（１）自由意見への対応

CM 業務の事例紹介については、CM 方式の問題点・課題等の理解度を深めるとともに、費用や役割、リスク等の具体的内容についても、可能な限り公表できる実例を中心として分かりやすく説明していく。

特に、東日本震災復興事業以外の CM 業務に対する事例紹介の要望や、今回初めて実施し、好評であった発注者の視点からみた CM 業務についての紹介、さらには道路分野以外での CM 業務に対する事例紹介の要望に応えられるよう、来年度も引き続き調査を進め、事例紹介のテーマを広げていく。

なお、アンケートでの自由意見は、全ての意見を当専門委員会内で共有し、来年度以降のセミナー運営に役立てるものとする。

（２）今後の対応

講演内容については、CM 業務の特徴や現状での課題の概要や、東日本震災復興 CM 業務の実例について、建設コンサルタントと発注者の両面の立場からの説明から、現状の問題点・課題等が理解されてきており、今後は国内でのあらゆる事例を対象に整理を進め、震災復興以外における CM 方式の活用に向けて検討する。

そして、新たに CM 方式の活用に向けた解説として、維持管理分野への CM 方式活用に向けて、事例収集を踏まえ検討する。

講演形式についても、事例の報告だけでなく、事例をベースとしたパネルディスカッション方式を検討する。